

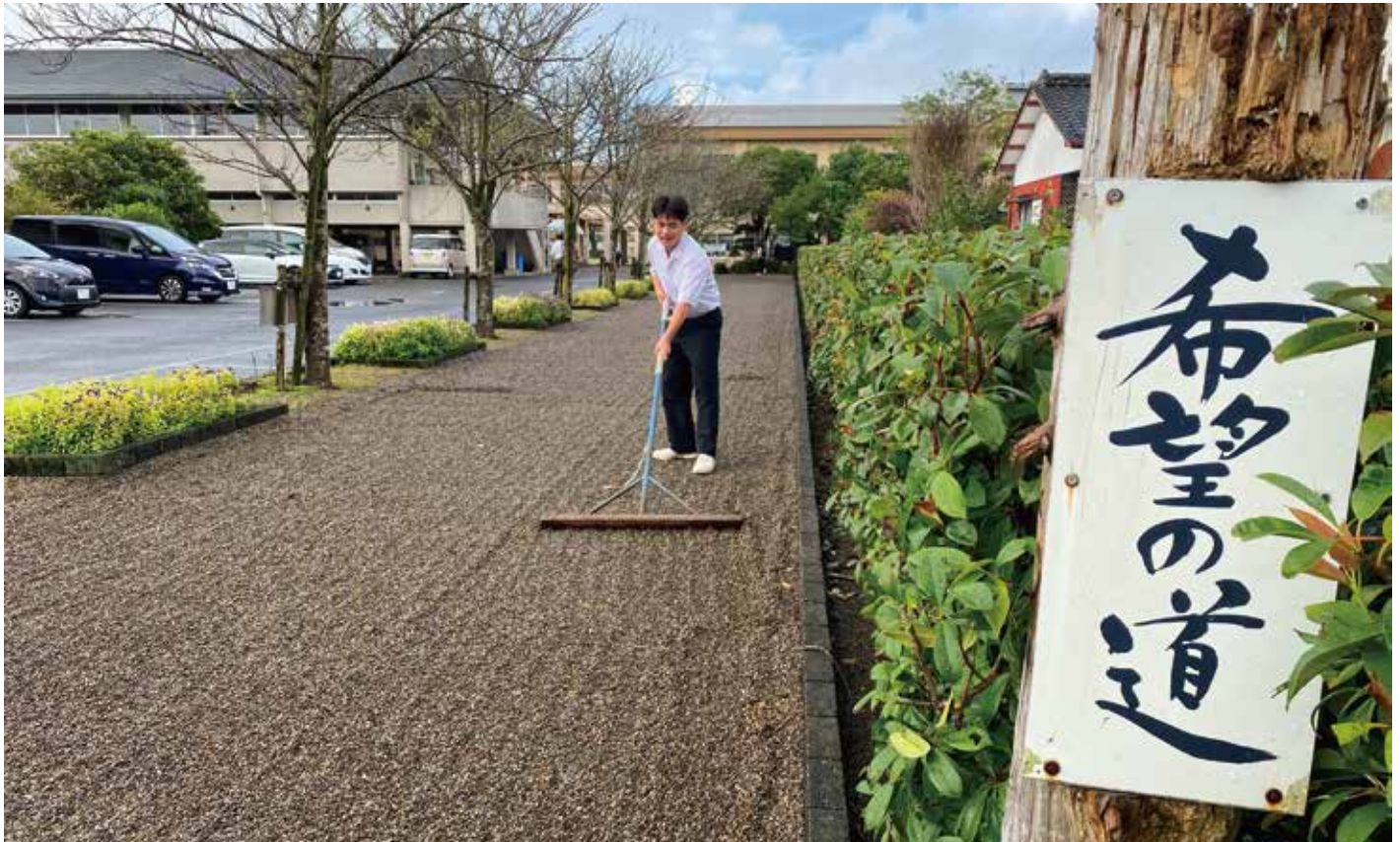
まじな

2024 **11** November

今号の題字

高鍋町立高鍋東中学校 3年

永友 仁胡さん



独自の伝統活動を通して、地域の方々から応援される高鍋東中を目指して

高鍋町立高鍋東中学校(宮越康晴校長・生徒数34名)のある高鍋町は宮崎県一面積が小さいまちですが、商業施設等が充実し、とても住みやすいまちです。また明倫堂を開設した日向高鍋藩7代藩主・秋月種茂公の教えが息づく「歴史と文教のまち」です。生徒は帰りの会時に「明倫堂の教え」にある14項目を一心に素読し、日常での意識化、行動化を目指しています。「人の道」はどうあるべきかを生徒と教師で日々考え、行動することで、地域の方から「東中の生徒は気持ちがいいがねー」と認められるよう努力しています。蚊口浜の清掃や祭りのボランティア等にも多くの生徒が参加し、笑顔で地域の方と交流しています。その他、校庭の砂利道をおもてなしの心で整備する「目立て」や背筋を正し、目を閉じ、深く呼吸し、心を落ち着かせる「正姿勢想」、自らが気づき、考え、行う「無言清掃」など、独自の伝統活動を通して、これからも応援をいただける高鍋東中を目指していきます。

【教頭 小山貴弘】

CONTENTS

- ② 宮崎県PTA連合会リーダー研修会
- ③ 子ども110番・おたすけハウス
コラム「三輪車」
- ④ 日本PTA全国研究大会川崎大会
- ⑤ 三行詩
宮崎県PTA新聞コンクール募集
宮崎県PTA研究大会延岡市・西臼杵郡大会
- ⑥ トピックス「国富町立本庄中学校」
編集後記



宮崎県PTA連合会
ホームページ



編集・発行：宮崎県PTA連合会

発行責任者：森山 慎作

宮崎市旭1丁目3-10 婦人会館2階 Tel:0985(22)3081 FAX:0985(20)9443

<http://www.miyazakienpta.com> E-mail: mken-pta@io.ocn.ne.jp

リーダー研修会

令和6年
8月17日(土)
JA AZM
ホール

令和6年度宮崎県PTA連合会リーダー研修会が110名の参加で行われました。主な参加者は県内の各小中学校のPTA会長・副会長です。

はじめに「魅力あるPTAへのアップデートを目指して」と題し、森山会長が講演されました。PTAの歴史はGHQによってアメリカから輸入された仕組みであることなど、そもそもPTAとはという基本的なことから、PTAの目的である「子どもたちのため・大人の学びのため・ご縁と親同士のネットワークについて掘り下げてお話しされました。最後に、PTAをアップデートするためにどのようなPTAなら継続できるのか、その条件を考えていくことが大切だと締めくくられました。

その後、3会場に分かれ、PTAへの入退会問題についてやPTAの諸課題等について同規模の学校でグループを作り、情報交換会を行いました。参加者は、活発に話し合い、互いが抱えている問題について情報を共有し発表していました。

アンケートから

93/108名
回収率 86.1%

○他の学校のPTAの方と意見交換ができ、有意義な時間になりました。PTAの入退会問題も学校によってはあるみたいですが、子どもたちのためにも協力してもらえればと思います。

○地域、学校によって問題は様々あり、すぐに解決できるものではないが、今後継続して協議していくことが重要と思う。

○PTA活動を継続するためにどうしていくか、役員決めや会費をおさえるために今後どうしていくか話し合えてよかった。

コラム 三輪車

「御田祭」のかかわりを通して

美郷町立西郷義務教育学校
教頭 押川 清憲



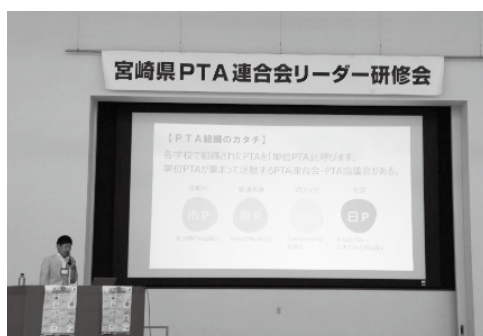
新型コロナウイルスが5類に移行し、学校行事だけでなく地域の行事等、様々な活動が復活してきて約1年…。一つの行事に向けて多くの方が関わり、みんなで行事を楽しむ様子は、やはりいいものだと感じます。美郷町西郷の田植え祭り「御田祭」も昨年度4年ぶりに本格実施されました。

困ったのは「当時のことを知る職員が少なく、『学校は何をすれば?』というところ。子どももみこし制作の依頼がきたが、方法も材料も分からない。みこしの骨組みを旧田代小学校でやっと見つけたけれど、土台部分が破損している…。」といったスタートでした。

そんな状況を手助けしてくださったのが地域(保護者)の方々です。過去の御田祭についての文書の提供、PTA会議でのご意見、当日の子どもたちのサポートなど、学校が地域の祭りに参加することを全力で支えてくださいました。

神田に入り、泥だらけになりながら田植えをしたり、みこしを担いだりする子どもたちの笑顔や真剣な眼差しを見て、「地域あってこそこの学校」であることをあらためて感じました。

学校(子ども)を温かい目で見守る大人たちの思いが、地域に誇りと愛情をもつ子どもたちを育てていく大きな力になっているのだらうと思います。



子ども110番 おたすけハウスについて知ろう！

宮崎県PTA連合会では、子どもの安全を社会全体で見守る体制作りに取り組んでいます。教育委員会、警察、社会教育団体等と協力し平成13年7月に、「宮崎県子ども110番」を立ち上げました。

連絡会では、子ども110番おたすけハウス（以下、おたすけハウスという）のステッカーと、子どもが助けを求めてきたときの対応マニュアルを作成し配付しています。また、平成15年からは、おたすけハウスの協力者を対象に保険制度を整えています。

○おたすけハウスにステッカーと対応マニュアルが届くまでの流れは？

連絡会で作成されたステッカーと対応マニュアルは、単位PTA（地域の小・中学校）からの要望により配付され、単位PTAから校区内のおたすけハウスの協力者（ご家庭や事業所等）に届けられます。令和6年3月現在の宮崎県内のステッカー設置箇所は、約1万1千箇所です。

ステッカーと対応マニュアルは、県PTA連合会及び6市（宮崎市、日南市、都城、西都市、延岡市、日向市）のPTA協議会に保管していますので、必要になった単位PTAは、ご連絡ください。

○おたすけハウスに登録する方法は？

協力希望者の居住地や、事業所が所在している校区の小・中学校に連絡をしてください。登録のための必要な手続きが完了したら、ステッカーと対応マニュアルが学校から配付されます。

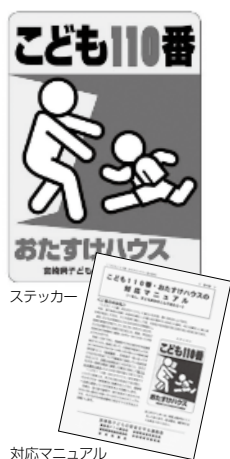
○おたすけハウスの保険とは？

おたすけハウスにご登録いただいた方には、子ども110番向け災害見舞金等補償保険（東京海上火災日動保険株式会社）が付いてきます。本活動に直接関連して被害を受けたり、建物や収容されている動産が破損したりした場合、一定の条件でお見舞い金をお支払いするための保険です。

○他団体との連携は？

各単位PTAはおたすけハウスの取組を核として、さらに補完的活動を行っており、地域の青少年育成組織による登下校見守り活動や、青色パトロール隊の活動も定着してきています。また、ガソリンスタンドや、コンビニエンスストア、外食チェーン店などの企業もステッカーの受け入れにご協力いただいています。現在、企業の登録数は49となっております。

このように、家庭、地域、学校、その他の団体が連携し、地域や社会全体で子どもたちを犯罪から守るため様々な取組がなされています。地域の安全力を高め、未来を担う子どもたちが安心して成長していけるよう、連絡会としてもおたすけハウスへのご協力の要請や、組織づくりを進めたいと考えています。



PTAや学校の取組事例

●小林市立三松小学校（児童数443名）

ステッカーの協力者件数 54件（令和6年9月3日現在）

①おたすけハウスの利用状況

児童の駆け込み等の報告なし

②協力者への対応

PTA育成部が窓口となり、年に1回、各地区の児童・保護者会長による状況確認や継続協力依頼、保険についての確認、ステッカーの状況確認を実施。必要に応じてステッカーや説明資料の再配付を行っている。

③最近の取組、今後の取組

7月5日（金）に、1年生から3年生を対象に、地域とタイアップした不審者対応避難訓練を行いました。宮崎県警察本部、小林市警察署のご指導のもと、「おたすけハウス」のファミリーマート三松中前店の協力を得て実施しました。第1部では、体育館で防犯講話を行っていただきました。危険な人はどんな人かを確認した後、不審者に遭遇したらどうするかについて話し合いました。第2部では、3年生を対象に、校外に出て、道路で不審者に声をかけられたらどうするかについて実技訓練を行いました。代表児童は「おたすけハウス」のステッカーの貼られている「ファミリーマート三松中前店」に駆け込むことができました。お



店の方にとっても、駆け込んできた児童にどう対処すればよいかの訓練として対応していただきました。代表児童以外の子どもはそのやりとりを観察して学びました。

●宮崎市立港小学校（児童数428名）

ステッカーの協力件数 51件（令和6年5月24日現在）

①おたすけハウスの利用状況

現在のところ、児童が利用したケースはないが、おたすけハウス協力者の方は快く引き受けてくださっている。

②協力者への対応

ステッカー配付の際、地区長さん（保護者）たちが直接会い、話をするなどしてお願いしている。登下校時の見守りもお願いしている。

③協力者の声

ずいぶん前から協力しています。PTAの方が来られ、児童の見守りをはじめ、助けを求めてきた時に相談に乗るなどの協力をしてほしいと依頼がありました。

ぜひ子どもたちを見守りたいと考え、喜んで引き受けました。毎朝子どもたちが会社の前を通学しているので、手助けできることがあればと窓からみんなで見守っています。

（南九州みかど 社員の方より）

④最近の取組、今後の取組

コロナが明けて、改めて見守りの依頼を行った。どの方も快く引き受けてくださり、大変ありがたかった。「何かあった時には遠慮せずにおたすけハウスを利用して良いんだよ」ということを児童にも伝えていく。



第72回日本PTA全国研究大会

川崎大会



大会スローガン

ウェルビーイングの実現を、川崎の地から
～活かそう「縁」の力～

1日目 令和6年 8月23日(金)

2日目 令和6年 8月24日(土)

会場：川崎市とどろきアリーナ

川崎大会全体を通して

宮崎県PTA連合会会長 森山 慎作

開催地である川崎市は、かつて東海道の宿場町として多様な文化や人が流れ込んできた歴史があり、そんな多様性に満ちた本市で学びの機会が得られたことに、まずは大きな意義を感じました。

キーワードは「ウェルビーイング」。それぞれにとつての幸せのカタチとは、それをどう子育てやPTA、社会に広げていくのかについて思考を深めていきました。そして、大会運営における様々な創意工夫が、参加者にとって大きな価値を生んでいたと感じます。

1. 二会場開催＆360度全方位ステージにより、全ての講演・セッションに一体感をもって参加できた。

2. 違う色のリストバンド(他地域)の会員と座席を交え、全国各地、様々な会員と交流ができた。

3. アクティブラーニングの実践、意見交換により、学びをアウトプット、個人宣言として具体的行動に落とし込めた。

最後に次年度への大会旗引継ぎや大会宣言の決議等が行われ、今後更なるPTA活動の推進を全員が誓いました。来年はぜひ石川の地へ、たくさんの元気を届けにいきたいと思います！

1日目 特2

「大人が変われば子供も変わる！ウェルビーイングの社会実装」
「学び保障の政策を社会に根付かせることの大切さ」

日南市PTA協議会会長 井上 英彦

トキョーコーヒー代表、吉田田タカシ氏の講演を聞きました。全国で学校に行かないこと

を選択する約30万人の子どもたちにとって最高の居場所を作る活動をされているそうです。「問題は、子どもの不登校ではなく、大人の無理解」という視点から教育を考え、学び、大人が楽しく活動する場所を提供しています。

大人が楽しく幸せであれば、子どもたちも幸せになるとの言葉を聞き、私も楽しみながら幸せについて考え子どもたちのためにPTA活動をやりたいこうと思いました。トキョーコーヒーの拠点は、宮崎にもあるそうなので、一度参加してみたいです。



吉田 タカシ 氏

2日目 セッション2

「子供たちと一緒に自己肯定感を高め合う家庭教育の大切さ」

「子供たちへの報酬は「ほめること」。もっと親力を発揮しよう！」

都城市PTA連絡協議会副会長 溝添 友貴

セッション2では教育評論家の親野智可等氏が講演され、周囲の参加者との意見交換も行いながら進められました。親野氏の推奨する「子どもの写真を家に飾り、それを見ながらほめてあげる」ことで子どもの自己肯定感を高める「ほめ写」という取組の紹介がありました。このほめ写のメリットは

・親が子どもを大切に思っていることを自然と伝えることができる

・子どもががんばっている姿や輝いている瞬間をカタチに残すことができる

・子どもが「自分はできる、がんばれる」という実感を日々感じることで

といったことが挙げられていました。スマホにはたくさん写真を収めていますが、プリントして子どもと一緒に眺めることがなくなっ



親野 智可等 氏

ているなと感じました。皆さんも子どもと一緒に写真を選びながら日々の大切な瞬間を切り取るほめ写をやってみませんか？

記念講演

「ウェルビーイングを社会にひろげることの大切さ」

「学びを振り返り、今こそ一歩踏み出す決意の瞬間を楽しもう！」

西都市PTA協議会会長 阿萬 一皓

川崎大会の締めくくりとしてEVO株式会社代表取締役CEOである前野マドカ氏より記念講演が行われました。

我々大人は「子どものためだ」とPTA活動をしがちですが、我々大人がまずは楽しみ、その姿を子どもたちや保護者が見ることで、楽しい雰囲気は伝わっていくとのことでした。いかに我々PTAがお手本となり子どもたちや保護者へ伝えていくことが大切かを再認識しました。

また、印象的だったのが、ウェルビーイングを実現するために「やってみよう」「ありがとう」「なんとかなる」「ありのままに」という4つの言葉に気を付けていくことで幸せになれるとの研究結果も出ていたとのことでした。

私自身初めての全国大会参加に加え「ウェルビーイングとはなんだ？」という状況から始まった本大会、いろいろな方々の講演、参加者の

声を聞き、本大会で感じ

たものを、自分自身の熱

量をもって伝えていく

こと、そしてそれを少し

でも広げていけたらと



前野 マドカ 氏

感じた講演でした。

たのしい子育て全国キャンペーン

三行詩入選作品紹介

「家庭で話そう! 我が家のルール・家族のきずな・命の大切さ」をテーマにした三行詩募集に、県内の小中学校より353点の応募がありました。その中から県内審査を通過した作品15点を、日本PTA全国協議会へ推薦しました。

「小学生の部」

ねえ 赤ちゃん
生まれてくれてありがとう
今度はわたしが
守ってあげるね

荻窪莉紗／三松小学校

雨がふる
うるさくてねむれない
となりの姉ちゃん
だきしめてみた

杉谷千穂里／美々津小学校

家族がひとつにあつまったら
かたいひもの丸いわが
ぼくたちをつなぐ
きずなのわ

大生陽丸／夏尾小学校

学校に行こうとすると
「行かないで」と
だきついてくる
ぼくのかわいいおとうと

川村れん／財光寺小学校

ごめんなさいは
相手に伝わらないう
ごめんなさい

宮田佳祈／恒富小学校

「中学生の部」

お先にと
一番風呂に入る僕
おあとにいつも最後に
入る母

塚田隆太郎／岡富中学校

なぜわかる
かくしてること
みぬく母

上田悠人／細野中学校

ネットより
家族とハナして
咲く笑顔

黒木佑凌／細野中学校

頑張ってる
親の背中に
憧れる

竹下颯亮／飯野中学校

「出来ない」
と諦めることは簡単
「出来る」
と自分を信じよう
そしてもっと自分を
大好きでいよう

川添蕾桜／夏尾中学校

「一般の部」

振り返ると
あつという間の子育て期間
大きくなった我が子たち
これからも応援しています。
でもそんな自分たちも80歳
超えた親から見守られています。

南園政幸／狭野小学校

今日も一日 無事に終わった
子どもの寝顔を見ながら
ほっと一息

塩月由貴子／美々津小学校

テレビの音もない
スマホの音もない
静かな空間で日課にしている
「今日の出来事」親子報告会

遠藤渚／美々津小学校

「ねえママ聞いて!」
「ねえママ大ニュース!」
いつも夕方になると
2羽の小鳥が
ピーチク パーチク
何から聞こえるのか
どっちから聞こえるのか
ママはいつも迷っちゃう
そんな日常が幸せ!

赤木由紀／財光寺小学校

「今日学校でね…」
子供の話を聞きながら
会話が弾む帰り道
自宅に向かう道のりが
親子で綴る連絡帳

新村明日香／夏尾中学校

第66回宮崎県PTA研究大会

延岡市・西臼杵郡大会

自他の幸せのために 学び 楽しみ つながるPTA
～子どもを真ん中に みらいへつなぐPTAの「和」～

- 日 時… 令和6年12月7日(土)
- 場 所… 野口遵記念館
- 研究発表… 串間市立大東小学校PTA
延岡市立延岡中学校PTA
- 講 演
「PTAは“すべての子どものため”にあるのでしょうか?」
～少子高齢化における「P連」の役割について～
- 講 師… 岡田 憲治氏

第45回宮崎県小・中学校 PTA新聞コンクール募集の お知らせ

今年4月から年内に発行したPTA新聞(広報紙)を
ご応募ください。

申込詳細は、きずな11月号と一緒に学校へお届け
している文書や県Pホームページでご確認ください。

【応募締切】 令和7年1月6日(月)

【応募先】 宮崎県PTA連合会事務局

ふるさとを大切に、夢を追ひ、心温かく集う我ら本庄中 〜元氣、勇氣、笑顔、感性あふれる本庄中〜

【国富町立本庄中学校】（久我 秀隆校長 生徒数233名）

本庄中学校は、宮崎県の中央部に位置した国富町にあります。東側・南側は県都宮崎市、北側は古墳群で有名な西都市、西側は綾町に囲まれています。また、西に九州山地を望み、眼下に本庄川を見下ろす自然豊かな美しい環境にあります。「時を守り、場を淨め、礼を正す」を校訓とし、「心豊かでたくましく、将来を正しく」に生き抜く生徒の育成を学校の教育目標に掲げ233名の生徒が明るく元氣な学校生活を送っています。

昭和22年5月に本庄小学校の校舎の一部を借用して授業が開始され、翌23年には旧青年学校の跡地であった現在の場所に校舎が建てられました。また、31年に校歌、33年に校旗が制定され、これまでに15,000人あまりの卒業生が巣立っています。



校章

【本庄中学校の特色】

校訓の一つである「礼を正す」の具体的実践として生徒会を中心にあいさつに力を入れています。中央委員会の取組として朝のあいさつ運動はもちろんのこと、校内での普段からのあいさつの充実にも力を入れ、これまでに生徒総会でも全校生徒で議論し、これから様々な取組につないでいきます。

令和4年度には、総合的な学習の時間や社会科における取組を通して、NIE全国大会宮崎大会で国富町の魅力発信を行いました。その後も引き続き、「新聞の日」の出前授業やICTを活用した資料編集など、教育活動の様々な



NIE教育



あいさつ

場面で新聞記事の活用を図っています。また、部活動では町内3中学校合同で活動する「拠点校方式」に取り組んでいます。そのうち本校では、野球競技、バスケットボール競技の他、今年度から新たにサッカー競技を加え、部活動の地域移行に向けた取組を進めています。

【PTAによる教育活動への支援】

総合的な学習の時間等を中心にPTAによる教育活動への支援も積極的に行われています。第1学年では、「知る」地域の良いところを発見しようというテーマで様々な課題を設定して体験学習に取り組んでいます。国富町の魅力ある「ひと、もの、こと」の中から一つ選んで調査・発信し、「くにとみ博士」をめざす活動に取り組んでいます。その活動の講師をPTA役員を中心とする保護者や地域の皆様に務めていただいています。また、第3学年では「夢を追うために『深める』をテーマに、『職業講話』を行っています。地域のプロの話を聴いて、進路についての知識を広げることが目的ですが、ここでも講師をPTA役員を中心とする保護者や地域の皆様をお願いして学習活動を支援していただいています。その他にも体育大会における支援やPTA保健委員会の運営などにも取り組んでいます。



体育大会



くにとみ博士



拠点校部活動

【環境整備としてのPTA活動】

本庄中学校のPTA組織には、卒業生の保護者で構成される「おやじの会」があります。平成14年に設立されて以降、OBとしてPTA活動の支援にあたったり、毎年12月になると竹などの材料や道具を地域より持ち寄って門松をつくり、校門に設置したりするなど教育環境の整備に一役買っていたいただいています。また、8月には事業部が中心となって「親子共汗作業」が行われ、早朝より地区ごとの割振りに従って除草作業などの環境整備に生徒とともに取り組んでいます。



門松づくり

【これからのPTA活動に向けて】

新型コロナウイルスによる行動制限や働き方改革、少子化等の社会情勢によりPTA活動も様々な制約を受ける場面が見られるようになりました。そこで、本庄中学校PTAでは、今年度の総会においてPTAの組織改革が提案されました。PTA会長より「できる人ができる時にできる活動」や「つて良かったと思える活動」つなかりをつくることのできる活動」等をめざして組織、活動、予算、規約等見直ししていくことが提案されました。なかなか単年度だけではすべての課題を解消することは難しいですが、持続可能なPTA活動をめざして取り組んでいきたいと議論を始めたところです。

【教頭 古澤慎一郎】



学校北側道路より

編集後記

今年の夏は、家族でフェリーで神戸へ出かけました。ずっと念願だった日本一美しいと言われている「ほとととつとフィールド神戸」に到着。前もって14曲ほどの応援歌を頭にたたき込み、ユニフォームを着て、手には応援用ハリスンを握りしめ、精一杯の声をバファローズに送りました。

平田

手話を勉強し始めて、声を出せない時に娘と秘密の会話ができるのを楽しみにしていました。朝出かけた娘を4階のベランダから見送るのが日課の私。今朝もベランダから、長袖の制服の娘に手話で「長袖？今日は暑くないの？」と聞くと手話で「ちようどい」と返ってきます。「最高気温何度？」と聞いて返ってきた答えは指文字での温度。私、視力が弱くて見えないわ。盲点でした。

西村

最近とある記事で「言葉（ことば）のことを目にする機会がありました。『ポジティブな言葉』と『ネガティブな言葉』を植物にかけ続けるという実験です。不思議な話ですが、人のためにも自分のためにも日頃から『よい言葉』を使うようにしたいとあらためて感じました。

田中

今年は、8万年周期で太陽の周りを回っているアトラス彗星が話題になりました。年末になると「去年の今頃は何をしていたかな...」来年の今頃はどうしているだろう...」と考える自分のことが「8万年」という時間を前にちっぽけに思えました。そして、目の前にいる人を見つめながら奇跡の出会いだとしみじみと感じました。

田ノ上